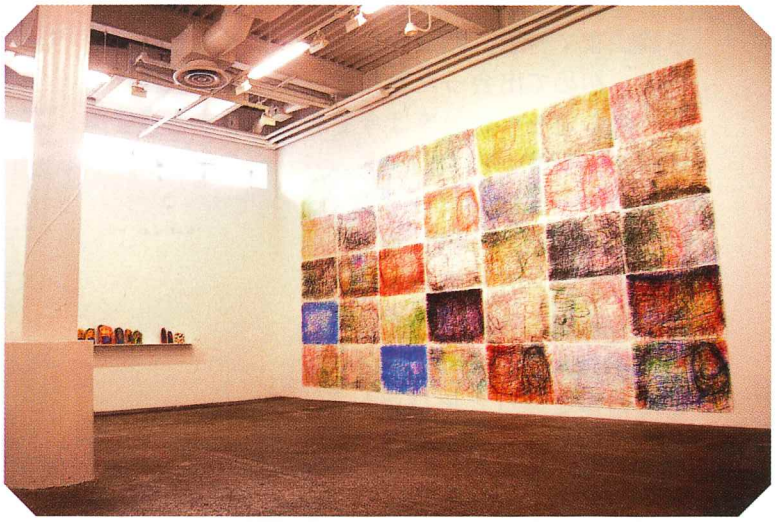
ウルリム
響
울림

特定非営利活動法人
聖公会生野センター機関誌
第50号
2009年7月15日発行
題字：康秀峰

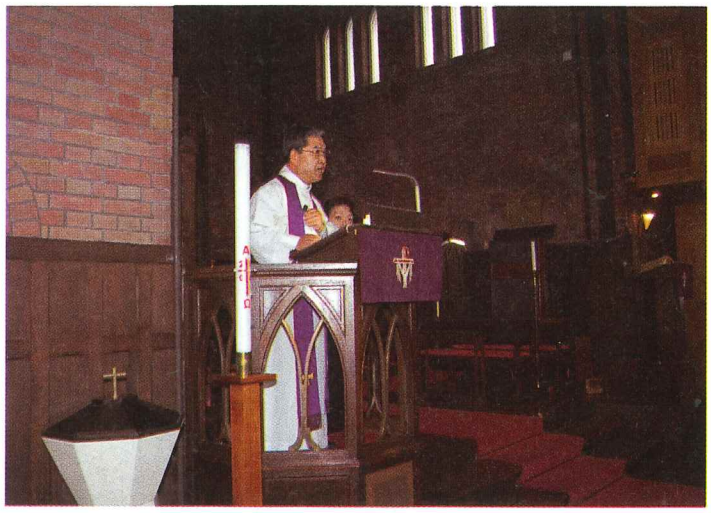
URL http://www.nskk.org/province/ikuno　E-mail:ikuno@nskk.org

聖公会生野センターも移転して２年目に入りました。毎日多くの人がセンターにやってきます。センターの写真をお届けします。楽しんで見てください。

済州島四三事件と旧日本軍遺跡をたどる旅での済州教会での礼拝後の記念写真。
開拓７年で乳飲み子からおばあさんまで共に礼拝を守り、大変なおもてなしを受けました。感謝。（４月）



大阪の西、ウォーターフロントに「海岸通りギャラリーＣＡＳＯ」で２回目のくりんモダンの作品を展示しました。模造紙35枚の大作です。多くの方が訪れました。（４月）



「朝鮮半島と日本の和解＝私たち教会にできること」のシンポジウムで来日された韓国元統一部長官の李在禎（イジェジョン）司祭。主日に川口基督教会で説教奉仕をしてくださいました。（３月）

美山（電話 06-6752-9588　聖公会生野センターから５分）
ご夫婦で天ぷら中心のお店。握り寿司８貫で500円はうれしい！九州の焼酎が安くて美味しい。時々行かせてもらっています。

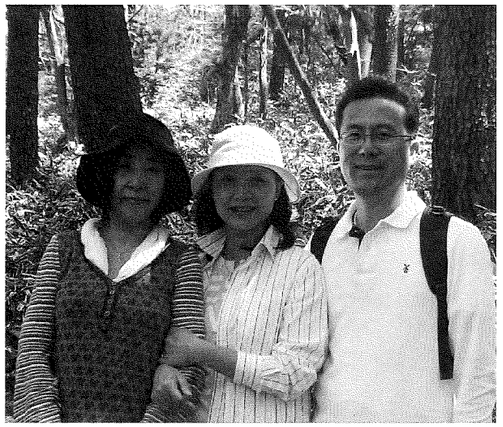
共に道を歩む人たち

朴東信

数日前、携帯電話のメールを見ました。「司祭按手記念日をお祝いいたします」。知らない電話番号であったが書かれていた名前は何年ぶりに思い出されて返事を送りました。「覚えてくださりありがとうございます。もしや何年か前に論山（ノンサン）で一緒に歩いた方でしょう」。ソウルに住む教友で５年前に一人で我が国の南の端である莞島（ワンド）からソウルまで15日間歩いていった事があります。

その時、どこからか私のこと聞き、忠清南道（チュンチョンナムド）から論山まで行き、私と一日一緒に歩きました。その時、初めて出会った教友だったのです。何よりも一緒に道を歩いた事は今でもはっきりと良き思い出として残っています。

去る４月に済州島４３事件の研修のために済州島を訪問してくださった日本聖公会の皆さんと済州空港で始めてお会いしました。皆さんの事を思うと再び浮かび上がってくるいくつかの光景があります。聖堂で感謝のミサを献げ、愛餐会を過ごしたこと、済州島を離れる日、強風のため空港で時間を過ごされた姿も今や楽しい思い出として残っています。そして何よりも済州４３平和公園を訪れて母子記念像から犠牲者の名前を彫った碑や記念館を一緒に歩いたことが思い出されます。



済州島の漢拏山での朴司祭（右）。向かって左は奈良基督教会の清水信子さん、真ん中は夫人の崔春善（チェチュンソン）さん

その時、一番ご高齢の木村さんは一行のペースに会わせて坂を歩くのはしんどい様子でした。そこで私と残り、坂からはあがらずに平坦な道を歩きました。少し歩いては休み、休んでは歩きながら坂から降りてきた皆さんと再合流しました。今、考えてみると言葉でお互いの意思疎通はできず、新旧世代が顔を合わせて以心伝心で気持ちを分かち合いました。そんなお年をめした木村さんの歩幅に合わせて一緒に歩いたのは美しい思い出になっています。

５月にはソウルに住む長老教会の牧師の友人が訪ねてきました。森の道の15kmの区間を５時間かけて歩きました。25年になる大学時代からの友人とこのように一日かけて一緒に歩いたのはどれだけ幸せだったかわかりません。一緒に貴重な話もしましたが、一緒に歩いた森の道が美しい記憶として心に記録されました。

済州島にきて８年目になりました。できるならば時々友人や知人とあちこちを歩きたいのですがなかなかそうはできません。ただずっと前に歩いた道を思い出だけにしまっておくしかない状況です。もちろん日本にいらっしゃる皆さんのことも同じです。

聖書を見たらエマオに下る道を歩いていた二人の弟子に復活したイエスさまが現われて夕暮れまで彼らと一緒に歩かれていろんな話をなされたという事が出てきます（ルカによる福音書24章）。聖書には多くの美しい話がありますがその中でこの二人の弟子と歩かれたイエスさまの話はとても楽しいものとして私に迫ってきます。使徒言行録では教会を示し、「その道を歩く人」として紹介しています。

最近は忙しいと言う口実でこのような時間をあまりもてないのですが、この前、近くのところにある樹木園を子どもや妻と一緒に歩きました。遠くではありませんが一緒に歩くというのは運動以上の意味があります。このように歩いてみたら生の究極的な指向点についにはたどり着くでしょう。家族や教会やどんな共同体の重要な生命は同じ道を共に歩くことだと思います。一緒に道の果てまで歩いたならこれ以上もっと美しい幸せなことがあるでしょうか？今日も主と共に共に道を歩く家族がいて、友人がいて、教友たちがいて、知人たちがいるという事が本当に幸せです。

（パク・トンシン　司祭　大韓聖公会釜山教区済州教会）

三一節の祈り

井田泉

今年は三・一独立運動から90年になる。日本聖公会では、この独立運動が勃発した３月１日に近い主日に聖公会生野センターの働きをおぼえて献金をささげている。

ソウルのタプコル公園（パゴダ公園）には三・一運動の現場を示す10の大きなレリーフが並んでいる。その第一は独立宣言文を朗読している場面である。レリーフの下に刻まれている説明を訳してみる。

「1919年３月１日午後２時、パゴダ公園では数千名の学生たちが、鄭在露（チョンジェヨン）による宣言書朗読が終った後、大韓独立万歳を高らかに叫びながら走りだすとソウルは一瞬のうちに感激と興奮のるつぼと化し、そのまま波涛のように全国に広がっていった。」

この場面には大韓聖公会の信徒も加わっていた。

1994年だったかと思うが、洪漫姫（ホンマンヒ）アガタさん（当時、大韓聖公会全国オモニ連合会会長）が「韓国の三一独立運動に関する証言」という題で講演してくださったことを思い出す。

「父、洪淳福（ホンスンボク）ヨハネは、1919年当時、ソウル京城高等普通学校（現在の京畿高等学校）３年在学生でした。その時父は聖公会ソウル大聖堂に通う学生であり聖公会の構内にある聖母館寄宿舎の寮生でした。」

そしてお父さん（洪淳福氏）の手記を紹介してくださった。

「己未年３月１日が来た。当日早く鍾路基督教青年会館（現在のソウルＹＭＣＡ）の前に行って独立宣言文数百部を朴老英（パクノヨン）氏より配られ、優美館という活動写真館に入り、電灯を消し写真を見ている観覧人に配布して出て、まっすぐ京城高等普通学校に行った。ちょうど、３月３日に挙行される高宗皇帝の因山式（葬儀）に参礼する予行演習をするために、全校生を運動場に集合させてあった。当時、独立運動はその学校の各学級代表者（私もその一人）の強力な指揮に従い、全校生の大多数を率いてパゴダ公園に行き、その他多数の民衆と合勢して独立宣言文を朗読する声を聞きながら『大韓独立万歳』を声高く叫んだ。数万名の人の波が群を成してソウル市街を練り歩き、一日中独立万歳を喉がかれるまで叫びながら歩き回った。」

そして洪漫姫さんは次のように言われた。「京城地方法院は三一独立運動に加担した私の父に出版法及び保安法違反で６か月間の懲役判決を下し、父は起訴期間である６か月を合わせ１年間の獄苦を経験することになったのです。」

現在の大韓聖公会祈祷書（2004）には「特別祈願 本祈祷」（特祷）の中に「三一節」の祈りが収められている。祭色は（赤）と指定されている。

「主なる神よ、あなたはわたしたちをすべての悪の勢力から解放し救ってくださいます。願わくは、国の独立のために命をささげた先烈たちの高貴なわざを繰り返し味わい、わたしたちをとおしてこの地に自由と平和を実現させ、再びわたしたちの民族が奴隷のくびきにつながれることがないように守ってください。」

その後に関連聖書箇所としてイザヤ９：３‐４、詩編137：１‐６、Ｉコリント７：21‐24、ルカ４：18‐19が記されている。

わたしたちの祈祷書、詩編137を開いてみる。

バビロンの流れのほとりに座り //　シオンを思い、すすり泣いた

そこの柳の木に //　竪琴を掛けた

わたしたちを捕らわれ人にした者が歌を求め //　虐げる者が自分の慰めに、「シオンの歌をうたえ」と命じた

異国の地にあって //　どうして主の歌がうたえよう

エルサレムよ、お前を忘れるよりは //　わたしの琴を弾く右手が衰えた方がよい

もし、わたしがエルサレムを思わず、それを最上の喜びとしないなら //　わたしは口が利けなくなった方がよい

来年からはもっと熱心にこの日を想起し、聖公会生野センターのために祈りたい。

（いだ　いずみ　京都聖三一教会牧師）

私たちは何を引き継いでいくのでしょうか

～精神の病気になって～　　S・Y

自分はどう生きていけばいいのだろうか。

この思いは人生のいろいろなときに向き合うことなのですが、ここ数年、また私はあらためて考えています。

私は精神の病気にかかり、回復途上にある50代の在日2世の韓国人です。精神障害者に共通する病気の体験―辛く、悲しく、絶望的な思い、自分ではどうする事もできない苦しみの時間や日々、孤独、希望のない生活―この暗闇の中から、光が見え、光に気づき、人間らしい心がもどってきて、また今、思い始めているのです。

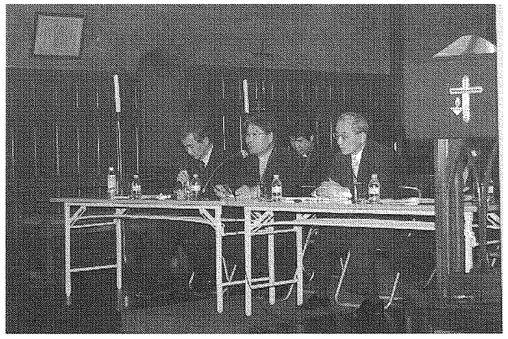
私は30数年前の20代半ばに発病し、計4度の精神病院（今は精神科病院と呼んでいます）への入院をし、最長は4年5ヶ月でした。地域で、心温かい人々のなかで、人と人とがあたたかくつながるなかで、私はこの状況から救われ甦りつつある日々を過ごしています。

今、精神障害当事者である私たちはこの病気の原因が深刻な感情的苦痛と社会的役割の喪失によるものではないかと理解し始めており、この精神の病気から回復（リカバリー）するということは人間性の回復なのだと考えています。（今、日本では精神科・神経科に入通院する患者が年間300万人を越え、11年連続3万人を越える自殺者が出て、大きな社会的問題になっています）

「病で苦しんだ事も、意味があったんだ。」「誰からも必要とされていないと自分で思いこんでしまっていたことが決してそうではない。」「…病の体験をして見えてきたものがあります」。と語る仲間たちと出会いました。精神の病気をしたことによって出会った私たちは、共に学び成長するというピアサポート（仲間同士の支え合い）の理念を確認し、人間らしく品位を保って生きたいと願っています。

地域で作業所や支援センターで共に悩み、苦しみ、支え合っている仲間たちのなかで、私はいろいろなくびかせから解き放たれて素直に学びたいと思いました。

この数年、精神障害に関わる講演会、学会、市民講座、講演会、文化芸術公演、映画等いろいろな場に行きました。生野区地域福祉アクションプラン会議、ＮＰＯ・ヒット「教育現場における精神障害者の語りに関する事業」等々にも参加しました。その課程で、私は長期入院から退院後のほとんど希望のない日々の中でのだらしない生活を反省しながら少しずつ心をととのえていこうと思うようになりました



向かって右が前島宗甫牧師（3/28の川口教会でのシンポジウムにて）

そのような流れの中で聖公会生野センターとの出会いがあったわけです。信仰する方々のお話を素直に聴く―できるだけ自分を白紙の状態におきながら聴きました。

「人として自らの良心に恥じない生き方を。」

「神は小さくされた者と共に」（本田哲郎司祭・ＴＶ放送において）

「どんなキリスト者になるか」（前島宗甫牧師）

と語られる教会の先生方の話を聴いて、人間にとって何が大切なのか、何を大切にして生きていかなければならないのか、ぶれないという事はどういう事なのか、あらためて深く考えました。

世の中には、この社会にはいろいろな運動があり、大義名分があり、いろいろな人がいます。人間の品性とは…素朴ですが、人間として何をもっと大切にするのか、何が恥ずべき事なのか、自らを省みることは、少なくとも自身を含めた世の人の幸せを願い、語る人々にとっては欠かしてはならない事だと思います。

世界は広く、人々の姿や講演会で話を聴いても、新聞や本を読んでも、音楽を聴いても、テレビを見ても、映画を観ても、世の中には心温かくすぐれた方々たくさんおられるとあらためて思いました。　その方々の心の深さ、心の高さを思うとき、自分の至らなさを大いに知り、少しでもわずかでも近づいていきたいと思うのです。

自然科学、社会科学における先人の英知の結晶への学びを深め、歩みたいと思います。

私は忘れません。人生の最も困難なとき、この苦しみ、この無念、この悲しみ、この痛み、絶望、孤独の日々、無気力の日々に手を差しのべてくれた人を。

今は涙が溢れ出ます。

連綿と受け継がれてきた心あたたかな人々の人間の精神、その心。その方々がいらっしゃる事に、この世に、この社会に希望を持ち、そして自らの未来に思いを馳せるのです。

心豊かな社会に向かっていくこの大きな流れに、小さな存在ではあるけれど、身も心もおいておきたい、おくところに私の幸せを見いだしているのです。

人とは心を引き継ぐ存在であるあるとある学者が語っていましたが、世代が変わりながら伝えられていく人間という存在のみが持つ人間の愛情、良い精神を引き継いで歴史は前に進んでいくのだと確信しながら。

今を生き、残りの人生を生きていきたいと自分自身に言いきかせながら、地域で仲間と助け合い、共に支え合って、日々を心穏やかに送っているこの頃です。

感謝を申し上げます。

（ＳＹさんは友人ですが、事情を鑑みて本人の判断でイニシャルにいたしました　呉光現）

済州島スタディツアーに参加して

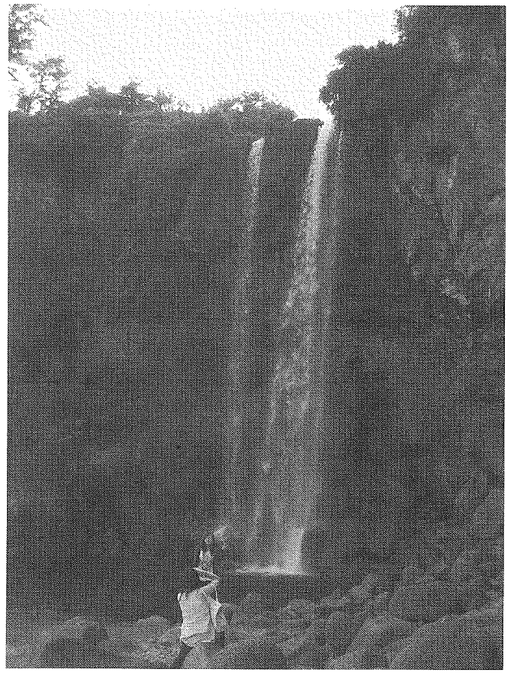
寺本眞名

1945年8月15日、朝鮮の人々は日本の敗退で35年待ち望んだ自分の国が独立、解放された喜びは大きかったと思います。そしてこれからは自分たちで朝鮮を発展させるのだという喜びに満ちあふれていたでしょう。それが北からはソビエト、南からはアメリカが進駐し、軍政の支配下に置かれ、自分の国がなぜ38度線で分断され、二つの国家になる？総選挙は南だけの単独で？

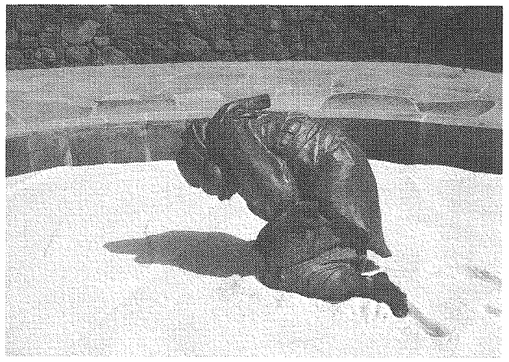
私が当時の朝鮮人だったら、がっかりもし、納得いかなかっただろうと思います。単純に「おかしい」「納得できない」という思いが命と引換えになるなどと誰が考えるでしょうか。済州島４・３事件の悲劇はここから始まったのではないでしょうか。

今回のツアーで訪れた済州島の南にある正房瀑布（チョンバンポッポ）は滝がそのまま海に流れる珍しい景勝地ですが、新婚旅行のカップルでしょうか、幸せそうに写真に収まっていました。しかし、彼らは1950年、朝鮮戦争勃発に備え、韓国政府にとって危険分子と睨んだ人々を予備検束し、虐殺、滝に放り込んだことを知っているのでしょうか。私も手錠をはめられた遺体が次々と対馬に流れ着き、驚いた日本人の手によって荼毘に付されたと説明を受け、暗澹たる気持ちになりました。

生野に済州島出身者が多いことは、以前から聞いていたのですが、済州島４・３事件との関連を知ったのは、３年前、京都教区宣教局社会部の聖公会生野センター体験学習会に参加して、呉光現さんから『済州四・三』の本を頂いて後のことです。事件は半世紀前に起っていたのに、知らなかったのは私の怠慢もありますが、事件そのものが封印されていたからです。ＮＨＫがＥＴＶ特集でドキュメンタリーとして放映したのも昨年です。



海に直接注ぐとても美しい正房瀑布。済州島四三事件ではこの上から多くの人が突き落とされて犠牲となった。



四三平和公園にあるモニュメント。討伐隊から雪の中を逃げる途中で息絶えた母子像。二度とこんな事はあってはならない。

済州島ジェノサイド事件、数万の住民が国家によって殺害され、家を焼き討ちにされる、あってはならないことですが、世界の歴史から考えると残念なことに繰り返されている事に気づきます。よく国家の安全保障といって、軍隊を持つことの必要性などが叫ばれますが、本当に国家は自国の国民を守るのでしょうか。済州島の事件はまさに国家権力によって殺されているのです。先日テレビを見ていて、国連の難民高等弁務官だった緒方貞子さんが国家の安全保障ではなく、個人の安全保障が大事なのだと話されていました。人権を守るための国家でなければ意味がないのですが、国家権力の意に沿わない人間は抹殺し、関係のない住民も巻き添えにする。その人や家族にとって一つしかない命がむざむざと消されることはあってはならないことです。

また1987年の民主化運動後に、事件究明が始まり、1999年に「４．３特別法」が制定され、2003年には盧武鉉（ノムヒョン）大統領が正式に過ちを認め、公式訪問をして公式に謝罪されたことで、私たちも平和公園を訪れ、各地にある慰霊碑で礼拝をすることができました。南北分断が多くの人を生野に向かわせたのでした。

最後に大韓聖公会済州教会の朴東信（パクトンシン）司祭をはじめ、多くの信徒皆さんの厚いおもてなしに感謝し、済州島犠牲者の鎮魂と将来の平和を祈りつつ。

（てらもと　まな　桃山基督教会）

統一は為された

中村　香

ズブズブと地球にのめりこんでいく。木を切り倒し草を刈り取り地を耕し、それでも地球に赦され、地球に足を踏み入れることを許可されたような、田植えをした、6月1日。

手で田植えした理由は、田んぼの真下の高麗人参畑のおじさんに、畦が崩れて高麗人参が死んだら、法の下そっちが責任とって賠償しなげればならないこと、若者が苦労して田んぼするなんて信じられない、1週間出稼ぎしただけでもっと儲かる、と言われ逆上した彼は勝手に手で田植えすることを決めた。結論上丸2日間にわたる田植えを手伝って下さった方々及び自分たちの食事代、間食代、酒代（宴会チック）は田植えの機械を借りるよりも更にお金がかかることが判明したが、自分たちの手でギャーギャー言いながら愛情たっぷり植えた稲は喜んだかのように生き生きしていたし、機械植えではない美しい線ができたし、自然と稲と人々の交流を感じ、これからも田植えは手でしたいなぁと思った。日本から遊びに来たのに仕事ばっかりさせられている妹の一言、「いいネタになったわ」。

その田んぼをならす作業をしていた5月23日、近所のおじさんがトラックで通り過ぎながら曰く、「盧武鉉（ムヒョンロ）が自殺した」。信じられなかったし、背筋がぞっとした。それは全韓国を揺るがす大事件となった。人々は盧武鉉前大統領に涙し、李明博（イミョンバク）大統領に怒っている。

6月8日、日本聖公会の第1回韓国社会宣教スタディーツアーがあり、私は通訳の補助として参加させていただいた。日本の、特に聖公会の人々と会えて私はそれだけで嬉しかった。プログラムの中に、文益煥（ムンイクファン）牧師の墓地参拝があり、それを心待ちにしていた。

文益煥牧師は南北統一がなければ民主主義はないと、統一運動に生涯を捧げ、何度投獄されても諦めずに民主化運動を続けた人である。“「統一は為された」”と名言を残し、夢の預言者と呼ばれた。私にとって南北統一は、“平和”の象徴だ。彼は心臓麻痺で亡くなるのだが、京畿道（キョンギド）の郊外である牡丹（モラン）公園に葬られた。

6月9日、その牡丹公園の墓地に行ったのだが、なんとも奇妙な場所だった。「誰も知らないところ」に葬られた人々は文益煥牧師、他多数。労働運動の始まりといわれる、1970年に「私たちは機械ではない、人間である」と叫んで焼身自殺した全泰壹（チョンテイル）烈士、民主主義を求めて焼身自殺した聖公会の青年、民主化運動をしながら命を落とした人、絶った人。水拷問により命を落とし、警察が拷問死したのを隠蔽したことから反発が広まり、民主化運動の本格的な始まりのきっかけとなった、朴鐘哲（パクジョンチョル）烈士。そうして1987年に6.10民主化抗争が始まる。偶然にもその前日に私たちは彼らの墓に参ったのだ。

ソウル郊外の牡丹公園にある文益煥牧師の墓。この墓地には多くの民主化運動、労働運動で亡くなった人たちが埋葬されている。

6月10日、毎年行われる6.10民主化抗争の記念日であるが、今年はそれに加え、盧武鉉前大統領の追悼式、李明博大統領政権反対デモが行われる予定で、ソウル支庁周辺を移動中であった私たちは真昼からの警察による道の封鎖により交通が麻痺し、2時間強、車の中に閉じ込められた。力と力がぶつかり合っている韓国の現状のど真ん中にいて、肌身で感じていた。

私は自殺をする人がにくい、盧武鉉がにくい。残された人々に巨大な悲しみを残すからだ。自分に悲しみを残すからだ。牡丹公園に行ったときも、胸が突き刺されてにくい。そんなに焼身自殺せんでもええやんかとにくい。しかしそうせざるを得なかった社会の現状、それにより実際に人々と社会に変化が起きた事実を見ると、その社会構造の深刻さが彼らを殺したとも言えるし、その悲しみがどんなに痛くてもにくむ前に、私がそれを受容しなければならないのか、とも思ってきている。

命を懸けて民主化運動を、統一運動をしてきた先人たちの犠牲と夢を踏みにじり、国民を力でねじふせ北朝鮮を挑発し、また盧武鉉前大統領を事実上自殺においやった李明博に、私は韓国人だからでなく、日本人だからでなく、人間として腹が立った。今まで韓国で色んなデモに参加しながらもどこか冷めていた私は、ここ数日の出来事で、これはデモをしなければならないと考えるようになったし、そう考えている自分に驚いてもいる。

最後に、文益煥牧師が亡くなられた時に作られた歌を、彼と牡丹公園に眠っている彼らと、盧武鉉前大統領とに贈りたい。

君はゆくのか　本当にゆくのか
遂げきらぬ想いを胸に　君はゆくのか
独りでゆかん道　冷たい風が吹き　雨が降れば　どうしたらいいのか
残された　我らの心に　深い懐かしさを　一握り残し
残された　春の道を　晩春の光が　やさしく包み込む
君がゆかん道　壁は崩れ落ち　枯れた葉は蘇る
君がゆかん道　足跡に近づく我ら　胸に深い懐かしさを抱き

「晩春のゆかん道」作詞作曲：リュ・ヒョンソン
晩春：文益煥（ムンイクファン）牧師の号
春の道：朴永吉（パクヨンギル）長老（文益煥牧師の妻）の号

（なかむら　かおり　韓国在住）

2008年度聖公会生野センターを支えてくださった方々。ありがとうございます。団体等でとりまとめて送金してくださった方もいらっしゃり、名前が出ていない方も多くいらっしゃいます。併せて感謝申し上げます。

（順不同・敬称略）2008年4月1日～2009年3月31日

【正会費】
中島省三／中村豊／舟茂敏雄・恵子／八木恵三／文奉國／石脇慶總／山根博子／須佐美浩一／城下彰／黒田裕／大西修（2）／大畑喜道／佐野信三／宮脇博子／プール学院／前原ひろ／五十嵐正司／小山俊雄・紀巳子／岡野利治／呉光現／中野三枝子／前田良彦・恂子／嵯峨崎順子／益海政一／伊藤美佐子／村上守旦／安井クリニック・趙秀一／堺聖テモテ教会／増岡広宣／岡田安朝／三浦恒久／こひつじ乳児保育園／齋藤祥子／齊藤壹／大橋襄／大田美智子／高田日出夫／佐藤耕一／久保道則／竹林徑一／猿橋靖・正子／堀江裕一／岡本勝／春名英夫／山本眞／小出裕司／奥田哲夫／宇野徹

【後援会費】
岩垂悦子／小川昌之／小泉正子／小林幸子／聖ニコラス保育園／竹中まり子／中島省三／西川壽代／森紀旦／井原津子／垣内純子／宮橋コウ／伊地知紀子／日本聖公会大阪教区婦人会／武藤六治／植松従爾／川口基督教会／古澤秀利／糸井玲子／荒川惇恵／申英子／山本保彦／斉藤まこと／百井幸子／池本則子／諸聖徒礼拝堂／柳時京／今村秀子／聖ニコラス保育園／浮田真治／金原光子／藤崎とよ／松居勲／福永芽久美／金秀吉／吉田立／佐々木庸／香山まり子／伊藤和雄／岡本愛子／松浦順子／熊澤美華子／中原恵／若宮英生／古本純一郎／小室一／岡田まり子／打田茉莉／大倉一郎／三木メイ／高木輝子／関正勝・澄子／和久英子／木下勝／松本一郎／古澤陽代／後藤聡／今中冨美子／林美人／中芝永次／内藤昇／吉田常夫／真鍋倫子／植田哲子／金光秀晃／垣内純子／黒田益弘／早川善樹／当舎あずさ／青柳美知子／畑野栄一／中和子／橋本祥子／山田謹／東敏勝／鈴木靖夫／佐治孝典／本吉聰／古荘和子／松田祥吾／佐藤悦子／小林満寿子／大野吾子／茂木充／小堀孝子／樋口敏雄／桜井揚子／西本マサエ／国津恵美子／内宮隆夫／相楽弘子／村上君子／堀貴美子／俣野恵子／前原羊子／佐谷和子／若村正博／菅寛量／福崎精造／小林正人／辻節子／瀬川義美／島田由紀子／堀江富美／杉本美津子／早川清子／国津進／三村タミエ／衣笠奈良美／堀武／田辺恵美子／藤木典子／江野隆夫／古谷利雄／辻彩乃／東弘子／宮川八重子／富谷晋／沢井正子／鍋島守一／板東長輝／松崎三登子／久下克己／梅原賀代子／高田須磨雄／堺聖テモテ教会／本多修／川上恭子／今村祥子／長野加代子／岩村正博／東峰多嘉／宇野喜句子／三木靖一／浅野忠章／豊川雅章／木村幸夫／広江照子／石森千代／橋本みさ子／植松喜久江／黒田昇／畑野めぐみ／石井英隆

【寄付・献金】
篠田茜／松浦順子／城下彰／金秋子／古澤陽代／松村公子／井口論／大畑喜道／吉田立／吉村元位／鈴木満紀子・慰／打田茉莉／邨田志津子／佐藤千鶴子／鄭恵先／辛在好／上田亜樹子・憲明／岸本真弓／山根健司／青柳美知子／岩城聰／松原恵美子／ｼﾝｺｰ運輸・信谷敏彦／李同順／金貞和／大橋襄／芳仲母／全薫／山根／のりばん一同／乾／齊藤壹／豊田英子／宮脇博子／榎本寿代／長野泰信／田村純朗／高見澤國子／小林明／谷昌二／大田美智子／真鍋倫子／稲原ミチ／山田謹／辻潤／緒方貴子／中岡千鶴子／近藤悠紀／阪本和子／渡壁忍・デシアナ／畑野めぐみ／石井英隆／アートサークル／大阪聖パウロ教会／大阪聖パウロ教会婦人会／大阪聖パウロ教会男子会／京都聖ステパノ教会／京都伝道区婦人会／松戸聖パウロ教会／横浜聖ｸﾘｽﾄﾌｧｰ教会／大阪教区婦人会／第３７回日韓の歴史を学ぶ会／京都教区教務所／沖縄福祉会聖マルコ保育園／石橋聖トマス教会（２口）／聖ニコラス保育園／神戸聖ミカエル教会／東光学園／京都教区宣教局社会部／京都教区京都伝道区信徒伝道／大阪教区南地区４教会／会京都・大阪合同教役者会／生野地域教会一致祈祷会／聖公会神学院／聖公会人権セミナー参加者一同／関東３教区生野委員会／韓国民団生野中央支部／大阪教区／オウルナヌムの会一同／大阪聖ヨハネ教会／大阪聖アンデレ教会／大阪聖愛教会／堺聖テモテ教会／プール学院中学・高校／金沢聖ヨハネ教会／無名献金

【クリスマス献金】
Angelina　関根恵理子／市川聖マリヤ幼稚園／ウイリアムス神学館学生会／大西修／神戸松蔭女子学院／松蔭高等学校／立教女学院／良善幼稚園／木川田一郎／キリスト教文化センター／草ヶ江幼稚園園児一同／久保道則／久留米天使幼稚園／康実／佐々木庸／下鴨幼稚園／三光事業団／鈴木慰・満紀子／聖三一幼稚園／聖ニコラス保育園／聖ルカ幼稚園／高木輝子／戸塚恭子／中島省三／中村道子／大阪教区芦屋聖マルコ教会／大阪聖アンデレ教会婦人会／川越キリスト教会／清里聖ｱﾝﾃﾞﾚ教会婦人会ﾅﾙﾄﾞの集い／京都聖三一教会／京都復活教会／富山聖マリア教会／西大和聖ペテロ教会／初島聖十字教会／桃山キリスト教会／神戸昇天教会／神戸聖ミカエル教会／新生礼拝堂／聖ヨハネ教会／聖パウロ教会／東京聖テモテ教会奉仕会／目白聖公会／札幌聖ミカエル教会／市川聖マリヤ教会／静岡聖ペテロ教会／平安女学院中学校・高等学校チャプレン室／前田良彦・恂子／松原栄／松本潤子／百井幸子／小杉尅次／高村竜平／佐藤与勝子／関正勝・澄子／日比谷潔／垣内純子／大洲幼稚園／北村盛秀／伊地知紀子／吹留辰雄／宗像和雄／中山一郎／森中みよ子／松本一郎／岩坂正雄／大阪教区婦人会／前原ひろ／小室一／稲原ミチ／岡田まり子／藤沢聖マルコ教会オリーブ会／南野あや子／後藤由江／大橋襄／聖ルシヤ教会／尼崎聖ステパノ教会婦人会／任大彬／大田美智子／大阪聖パウロ教会／大田黒千穂子／韓幸子／聖ヨハネ学園／守口復活教会／堺聖テモテ教会／野知卓司／林寛子／宇野徹／大阪聖ルカ教会／中芝永次／恵我之荘聖マタイ教会

【新拠点募金】
相澤敏江／相原俊次／芦田邦子／井口論／石井英隆／石橋英昭／泉迪子／井出吉志子／糸井玲子／伊藤美佐子／稲原三千／今北富三／今中冨美子／岩城聡／岩坂正雄／植田哲子／宇野徹／大川千萬／大田黒千穂子／大谷タカコ／大田美智子／大塚勝／大西修／大橋邦一／岡田まり子／尾上照子／岡本勝／尾崎茂雄／垣内純子／金光秀晃／加納実／神谷尚孝／韓国殉教福者修道女会／九里イツ子／金永子／金秀吉／金由汀／久保道則／高地敬／小杉尅次／小林聡／小林史郎／小室一／近澤淑子／齊藤壹・祥子／キープ協会／在日本韓国ＹＭＣＡ／笹森田鶴／佐治孝典／佐藤大介／猿橋靖／澤レア子／愛信福祉会／博愛社　博愛の園／東光学園／松蔭女子学院／笑福亭仁嬌／杉原達／鈴木満紀子・慰／聖心会神学院学生／聖心幼稚園／聖ルカ保育園／関正勝・澄子／関本肇／高橋昇三／竹林徑一・敏子／谷富夫／田村純朗／趙秀一／月島聖ルカ保育園／辻彩乃／辻井正子／寺本眞名／内藤昇／中芝永次／中西久忍夫／中村大蔵／中山一郎／奈良慶治良／尼崎聖ステパノ教会婦人会／大阪城南キリスト教会／大阪聖三一教会／大阪聖パウロ教会／大阪教区近鉄沿線３教会／聖ルシヤ教会／西宮聖ペテロ教会／西宮聖ペテロ教会日曜学校／西宮聖ペテロ教会婦人会／沖縄教区／宮古聖ヤコブ教会／九州教区／教会／田辺聖公会／京都教区婦人会／八木基督教会／神戸教区／大洲聖公会／神戸昇天教会／高松聖ヤコブ教会／稲荷山諸聖徒教会／聖アンデレ教会／銚子諸聖徒教会／京都伝道区婦人会／札幌キリスト教会／逗子聖ペテロ教会／千葉復活教会／東豊中聖ミカエル教会／野木愛子／博愛社保育園職員一同／原田光雄／桧垣文子／久下克己／日比谷潔／広谷和文／福田光宏／福永芽久美／藤永壯／吹留辰雄／保坂久代／堀江裕一／本田富久子／マイチケット／前田良彦・恂子／前原ひろ／益海政一／松本一郎／松本潤子／／松本正俊／真鍋倫子／三浦恒久／三木メイ／向井希夫／武藤六治／宗像和雄／村田恵子／基子.Tbray／百井幸子／桃山学院大学キリスト教センター／森生加寿子／森田喜之／森中みよ子／山口元／山本保彦／湯田美明／吉岡容子／吉田立／和久英子／岩城聰／大阪教区婦人会／城下彰

新拠点・募金会計収支

収入	
大斎克己献金	10,000,000
募金	3,687,992
借入金	20,000,000
合計	33,687,992

支出	
改装費等	13,000,000
コピー機／印刷機等	2,159,535
事務／通信費等	765,118
借入金返済	11,000,000
合計	26,924,653

借入金残高　9,000,000

生野センター2008年度収支計算書　（自 2008年4月1日　至 2009年3月31日）　単位(円)

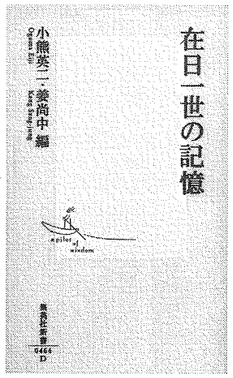
		勘定科目大項目	2008年度予算	2008年度決算
経常会計収支	収入	受託事業収入	7,374,500	6,644,900
		利用者負担金収入	6,130,000	5,816,583
		会費収入	2,350,000	998,497
		分担金収入	2,120,000	2,090,000
		寄付金収入	5,600,000	5,551,799
		雑　収　入	165,500	539,604
		センター資金から補填	1,500,000	
		経常収入計　(1)	25,240,000	21,641,383
	支出	事業費支出	12,440,400	5,381,003
		事務費支出	6,249,600	5,540,914
		民家共通経費	0	18,939
		人件費支出	6,200,000	11,329,887
		積立金	350,000	0
		経常支出計　(2)	25,240,000	22,270,743
	経常活動資金収支差額		0	-629,360

小熊英二・姜尚中編『在日一世の記憶』（集英社新書）

磯貝 治良

在日朝鮮人一世は異郷の地にあってどのように足跡を刻んだか。日本人の意識からも在日３世以降世代の意識からもそのことが忘れられつつある。本書には、在日のルーツを造った人々の生活史と精神史が個人の声を通して語られており、貴重な一冊である。

780余頁と新書版としては異例に厚い。しかし、語りの文章化なので読みやすい。女性17人、男性35人。多彩な生の軌跡がびっしり詰まっている。まさに「語られた在日のプリ（根っこ）」なのだ。



植民地体験と平和への願いを語り継ぐ女性、映画「海女のリャンさん」の主人公、強制連行、被爆の体験者、キリスト者、ひたすらに働いて多くの子どもを育てた女性、無念死した同胞のために遺骨堂を建てた人、サハリン残留同胞の帰還運動に献身する人、絵画、詩、歴史学、児童文学、民族運動／教育、音楽、映画制作、地域活動に生きる人々、ＢＣ級戦犯にされた人、故郷とつながりつづける日本籍者、ハンセン病療養所で生きた語り部、統一への願いを行動にする人。ウトロに生きる女性、吹田事件をたたかった人、コリアタウンに夢を馳せた人、参政権裁判をたたかった人、文字を習う女性、キムチを作り売って成功した女性、ハングルソフトの開発者、チョゴリに賭けた女性。

在日を生きる人々のかけがえのない生活史とパイオニアの語りが並ぶ。半端ではない苦労話から読みとれるのは嘆きというよりも生きる力だ。成功譚もあるが、それは苦難のなかで懸命に生きた結果なのだ。この本が語りかけるのは、植民地支配とその後の歴史なのに、読者はある種の激励を受ける。

「朝鮮人になって」生きる日本人女性も登場する。「日本の習慣を忘れた」とサラリと言う言葉は新鮮だ。在日と日本人がいかに協働するかを考えるとき、彼女の生き方は示唆深い。

本書がなるためには何人もの人の聞き取り・起稿の労があった。そのことも特記しなくてはならない。

昨今、「民族を超えて」とか「国家や国民をこえて〈わたし〉を生きたい」というフレーズが、日本人からだけでなく在日世代からも聞かれる。とくにアカデミズムや思想言説の世界では民族主義＝ナショナリズム批判がたけなわである。「ルーツ」とか「アイデンティティ」といった概念を否定する本質論批判もかまびすしい。わたしの考えも７割かたはその側にある。ただし、ナショナリズム＝ナショナル・エゴイズムとナショナリティ＝ナショナル・アイデンティティとを無媒介にゴッチャにはしたくない。

たとえば、在日一世にとって「民族」とは何だったのか。彼／彼女らの生を規定したのは、「民族」だった。猶予とか一時避難が許されない、ルーツだった。個人の歴史にはちがいないが、その受難は「民族」ゆえの受難であったし、生きる力を得たのも「民族」だったはずだ。「民族」の杖が救ってくれたとも言える。

ただし、その「民族」とは、イデオロギー化され、政治化され、暴力化される以前の、プリミティブな「民族」だ。一世にとっての「民族」とナショナリズム批判との折り合いを、どうつけるか。

この本を読んで、そんなことを思った。

（いそがい じろう　在日朝鮮人作家を読む会代表）

四・三の痛恨
その泣き声のこだま

清宇（チョンウ） 金龍吉（キムヨンギル）

わたしたちは記憶するであろう
　永遠に忘れることはできないであろう

一九四八年　戊子の年
ここ　火山の地の麓
むつまじく平和な中文面（チュンムンミョン）の村に
突然起った雷鳴のようなことどもを
痛恨の歳月が流れ流れても
心臓の血の塊が乾いて乾いても
どうして忘れることができようか

天帝淵（チョンジェヨン）の水は岩の中まで浸し
伝説をくわえて飛んでいた鳥たちは
仙女の羽衣のように天上へと翔け上がるのに
どうしてその泣き声のこだまは
因縁の血のからまりを解くことはできないのか

泣き声の赤い日々を　いまもう数えないでください

無念を語る残像を　もう下ろしておかないでください
英霊たちよ、永眠の陰に
いま志を固められ
和解と相生の水音となって
永遠に流れ流れるのですから
いまもう胸を洗い流さないでください

二千八年 戊子 春

（訳：井田泉）

済州島南部中文面の慰霊碑。観光地の駐車場のわかりやすいところに作られた。そこに済州島人の思いを感じる。この裏に慰霊の詩がある。

編集委員リレーエッセイ

「母国語と母語」

呉光現

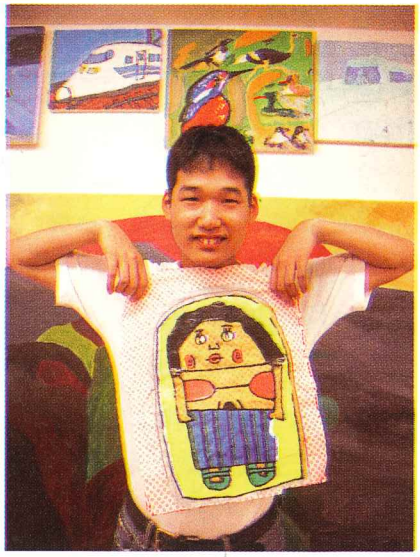
中国の朝鮮族の友人は「中国語が母国語、朝鮮語が母語」と言う。在日二世の私は朝鮮語が流暢な一世の元に生まれ育ったが、言葉の勉強は高校を卒業してからだった。「朝鮮語が母国語で日本語が母語」である。民族教育を受けさせる（民族学校入学）判断をしなかった両親の思いは鬼籍に入った今となっては知るすべもない。はっきりしているのは解放直後から朝鮮人はその民族的権利を抑圧はされても保障はされなかった事である。

今、三世、四世が成人となり在日社会も大きく変わってきている。あまりにもその多様性に私も将来の図を描く事はできない。先日長女が二〇歳の誕生日を迎えた。その日に恥ずかしそうに私に手紙をくれた。家族よりも仕事人間の私に感謝の言葉を綴ってくれた。子どもたちには私のような思いをさせたくない一念で民族教育を選択したが間違ってなかった事を祈りたい。最近、「在日の特権を許さない会」（在特会）という団体が徘徊している。日本人よりも在日が特権を得ているというのが彼ら／彼女らの主張だ。娘が大阪の韓国領事館の前で彼らのビラ配りに遭遇した。娘曰く「普通のおばちゃんが『朝鮮人帰れ』と言うビラを配っているのが怖いわ」。在日三世の普通の学生である二〇歳になるかならないかの若者に恐怖感を与える動きはまさにファシズムの兆候ではないだろうか？

東北アジアの平和は朝鮮半島だけでなく、日本、中国、そして太平洋を越えてアメリカまで含んだ多くの国ともつれた糸を丁寧にほぐしていく智恵と忍耐が必要だ。「国」と言う枠ではなく「市民」である事をまず考えていきたい。

（お　くぁんひょん）

クリンもだん美術教室から



最近、水着女性の造形にこっている浅里倫至さん。縫製もずいぶん丁寧になってきました。彼の意気込みが感じられます

余韻

■６月の韓国は激動。前大統領の自死は「権力者だった大統領の死よりも庶民大統領の死」として韓国民を悲しみと現政権への批判となった。民主化の闘いから勝ち取った民主主義の危機は即、南北の緊張激化、東北アジアの平和の危機と一人の死だけでない。■この号が出るころには衆議院解散、総選挙に向かっているのだろうか？韓国だけでなく日本も平和・民主主義・庶民生活の危機である。これは一国ではできないならば隣国同士が協力して解決の道を模索しないと、私たちの住む北東アジアが「火薬庫」にならないことを願うこの頃である（ピックァンチャ）

聖公会生野センターへのご支援をお願いします

◇正 会 費　年額　１口 10,000 円
◇後援会費　年額　１口　3,000 円から
・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」

◇自由献金・クリスマス献金
・郵便振込 00910-1-321780「聖公会生野センター」
・銀行振込 三菱東京ＵＦＪ銀行 東大阪支店
普通預金　4654965「特定非営利活動法人聖公会生野センター」

発行所：聖公会生野センター
〒 544-0002
大阪市生野区小路３丁目 11 番 19 号
TEL06-6754-4356/FAX06-6224-7869
E-mail: ikuno@nskk.org
http://www.nskk.org/province/ikuno
発行人：大　西　　修
編集人：大　橋　　襄

ウルリムは再生紙を使用しています。